

# 三水会会報

北里大学海洋生命科学部  
同窓会会報 第 87 号

令和6年3月発行  
(2024年)

編集者 内藤 文隆

発行 三水会(北里大学  
海洋生命科学部同窓会)

事務局 〒246-0031 神奈川県  
横浜市瀬谷区瀬谷5-22-1

TEL フリーダイヤル  
0120-873-135

目次、三陸の無脊椎動物	P.1	関西地区親睦会／研究室の近況報告	P.5
西原先生着任挨拶	P.2	就職ガイダンス	P.6
池上先生着任挨拶	P.3	お知らせ	P.7
会員近況報告	P.4	〃	P.8



ただいま食事中 エゾニチリンヒトデ



崎浜港岸壁住まい マボヤ



傍惚れのおしゃれさん エゾアワビ



ダイバーのアイドル エムラミノウミウシ

写真提供者：39MB 福土洋隆氏

## 着任挨拶

海洋生命科学部教職課程担当

西原 秀夫

2023年4月1日付けで、海洋生命科学部の教職課程担当として着任した西原秀夫と申します。担当の講座は「理科教育法Ⅰ」「Ⅳ」「ICT活用の理論と方法」「情報科教育法Ⅰ・Ⅱ（未来工学部）」などです。

出身は、地元の神奈川県相模原市で、大学では理学部、大学院（修士課程）では理学研究科で化学を専攻し、有機合成化学と電子計算機応用を研究していました。大学院修了後は、神奈川県教育委員会に奉職し、県立高等学校での理科教諭や総合教育センターでの指導主事を務めた後、いくつかの県立高等学校で管理職を務め、その後、最後の砦といわれる通信制の横浜修悠館高等学校で校長とし



て、あらゆる困難の中、高校生活を全うしようとする生徒の支援に力を入れ、ここを最後に定年退職しました。退職後は、再任用職員として、神奈川県教育委員会で県立学校の情報ネットワークの管理や県内公立学校のGIGAスクール関連の整備事業についての文部科学省との調整に従事していました。

私自身大変な多趣味で、振り返れば、小学校3年生から渋谷にあった五島プラネタリウムの会員となり、大学を卒業するまでの14年間、毎月の例会で2回（会員向けと一般向け）、都合300回以上のプラネタリウム鑑賞経験があり、これに加え、中学校時代からは、電子工作に興味を持ち、秋葉原少年として暇さえあれば、電気街をさまよい、さらには、撮り鉄として、蒸気機関車を追いかけて全国各地を徘徊する日々を送っていました。今でも、家の中は電子部品と鉄道模型であふれかえっています。これでやめておけばよいのに、高校では、ワンダーフォーゲル部に所属し、山歩きの魅力に取りつかれ、大学時代には、黎明期のコンピュータでのプログラミングに熱中していました。こんな状態ですから、勉強する時間などは全くなく、高校時代の担任には、

「お前が教員？」と言われるほど、理数系を除いては、散々な成績でした。

しかし、これらの支離滅裂な経験は、天文部やワンダーフォーゲル部の顧問として生徒を指導するにあたり、また、教育の情報化の時代を迎える中、先頭を切って走るため、さらには学校の勉強に興味を持たない生徒に寄り添うための、とても大きな力となりました。理科教員としては、プラネタリウムをとおしての天文学の知識、ワンゲル時代に身に付けた気象や高山植生の知識、電子工作での電気回路の知識など、専門の化学以外の専門性を高めるのに役立つものとなっていました。特に、情報技術については、教員人生のあらゆる場面で勉強の機会に恵まれ、プログラミングやデータベース、ネットワークについての高い専門性を身に付けることができ、現在、神奈川県立学校で利用しているグループウェアシステム（打合せ掲示板）、児童生徒の欠席連絡システム、マークシート処理システム（MarkScan）などの開発につながっています。大学に着任してからは、教員採用試験の問題データベース（神奈川県、東京都の過去5年間の問題と解答、解説）を構築し、学生に提供すると

ともに、現在は、初等中等教育向けのCBT（Computer Based Testing）システムの開発について研究しています。

昨今、何故かブラックと言われるている教員という職業ですが、私自身、私の職業人としての人生をとても豊かで質の高いものにしてくれた素晴らしい職業と考えています。この自身の経験を踏まえ、風評に惑わされることなく、教員をブラックとするのもホワイトとするのも、教員自身の生き方にあること、このことを学生たちに、正しく伝え、教員を希望する学生が一人残らず、教員として希望を持って活躍できる様、そのために、教員採用試験に全員が合格することを目標に、誠心誠意指導してまいります。今後とも、よろしくお願いたします。



## 着任のご挨拶

増殖生物学講座

魚類分子内分泌学研究室助教

池上 花奈



三水会会員の皆様、はじめまして。2023年4月1日付けで着任いたしました池上花奈と

申します。どうぞよろしくお願致します。本会の会長でもある高橋明義先生が昨年度まで主宰されていた歴史ある研究室、魚類分子内分泌学研究室にて、教育・研究に邁進できることを大変光栄に思うとともに身の引き締まる想いです。この場をお借りしまして、私の経歴や研究についてご紹介させていただきます。

本学部の先生方や卒業生、学生の中には子供の頃から魚や海洋生物が好きという方がたくさんいらっしゃる中で非常に申し上げにくいのですが、私は子供の頃から動物が好きなのと、家から徒歩で行けるとい理由で名古屋大学農学部になんとなく進学し、当時は製薬や医療関係の仕事に就けたら良いな、なんてことを考えていました。そんな中、「世界の食料問題の解決を目指す農学は幸せの学

問である」という話を当時の教授から聞き、せっかく農学部に進学したのだから、世界の食料不足を解決するようなことをしたいと思うようになりました。

名古屋大学農学部にも魚を対象に研究している研究室はあったのですが、当時の私は、魚よりも哺乳類に興味を惹かれ、畜産動物の繁殖性向上を目指し、マウスやラットを用いて生殖機能制御にかかる神経内分泌研究を行っている研究室に入りました。生殖腺刺激ホルモン放出ホルモン(GnRH)が1971年に発見されて以降、世界中で脊椎動物の生殖機能を司るマスターレギュレーターとしてGnRH研究が進んできていました。GnRHニューロンは、視床下部の視索前野という脳領域に存在し、魚類ではその軸索を脳下垂体の黄体形成ホルモン(LH)細胞に向かって伸ばしています。GnRHが軸索末端から放出されると、LH細胞からLHが放出され、血液を介して卵巣に作用し、魚類では排卵を促します。私が学部4年で研究室に配属された当時は、哺乳類を中心とした研究により、キスペプチンという神経ペプチドがGnRHニューロンを一義的に制御することがわかり、生殖研究分野では大きなフレーム

シフトが起きていたタイミングでした。所属研究室でもキスペプチン研究が中心で、その中でも私は、脳領域特異的なキスペプチン遺伝子欠損マウスの作出や、カルシウムイメージングなどを行い、キスペプチンニューロンを制御する分子・細胞メカニズムの研究を行いました。博士課程時、自分達の研究と似たような論文が次々と発表され、時には先を越されてしまった、という事もあり、ヒヤヒヤしながら日々、実験と論文検索に没頭していました。(この頃から、他の人達があまりやっていた分野で研究したいと思うようになります。)

このように神経内分泌学研究を進めていくうちに、神経生理学(電気生理学)の知識も付けたいと思い立ち、博士号取得後は、電気生理学を学びに、東京大学理学部の研究室でポストドクとして研究をスタートしました。ここでメダカに出会い、研究対象を哺乳類から魚に変え、生殖機能を制御する脳内メカニズムについての研究を継続することにしました。私がポストドクになった頃、魚類ではキスペプチンが生殖機能制御に重要でないことが明らかになりました。そこで私は、哺乳類以外ではまだ見つかっていない、GnRHをさらに

上位から制御しているニューロンを同定することを目指して研究を始めることにしました。

メダカは遺伝子組換えが比較的容易にでき、かつ脳が半透明のため、脳を取り出して培養液に入れておけば、脳の細胞を生かしたまま、蛍光タンパクで可視化したGnRHニューロンを見つけて、イメージングや電気生理学的解析ができます。つまり、GnRHニューロンの活動を制御している可能性のある候補因子を、培養液中に添加したり、メダカに投与したりして、その機能解析をすることで、生殖機能を制御する脳内メカニズムを分子・細胞レベルで明らかにできます。今後は、魚類(特に真骨魚類)の視索前野GnRHニューロンを中心に、生殖機能を司る脳内メカニズムの研究を続けていくとともに、最近、興味を持ち始めた、性成熟の分子メカニズムについても理解を深めていきたいと思っています。まだ妄想レベルですが、本学部の地の利を活かして、メダカ以外の魚種(できれば水産増殖的に重要な魚)を用いた研究にも力をいれ、水産増殖技術の開発や育種に役立てていこうと思います。

自己紹介は以上になりますが、皆さまと交流できる機会を大切に

したいと思っていますので、その際はどうぞよろしくお願いいたします。最後になりますが、本稿執筆の機会を与えてくださいました、三水会会長高橋先生、長谷川理事、および会報担当内藤様に感謝申し上げます。

## 「身近な小さい生き物たち」の写真集

水産学部増殖学科9期卒業生

武田 憲幸・

武田 (旧姓・高嶋) 久美子

水産学部増殖学科9期(1984年)卒業の武田憲幸・久美子と申します。

私たち夫婦は、幼い頃から生き物に興味を持ち、在学中には共に淡水増殖学研究室で生殖生理・人工授精関連の研究をしていました。



西表島にて

卒業後、私は本学大学院修了後に外資系製薬メーカーの研究開発に従事し、在職中に芸術大学大学院で生物写真の芸術・科学的な表現に関連した研究にて博士号(学術)を取得しました。現在は定年退職し、写真教室の講師や小学校の非常勤講師をしています。

妻は卒業後に化学系メーカーの品質管理に従事しながら商科大学大学院でMBAを取得し、現在も再雇用にて働いています。

さて、卒業してから40年、結婚してから35年が経ちました。ずっと大阪に住んでおります。その間、共に、趣味に打ち込む機会にも恵まれ、私は国内外での個展・

展覧会や芸術写真集『体書写影』(2014年)の出版などを通して写真活動をしてきました。妻は

トライアスロン競技にて国内年代別ランキングでは上位で頑張り続けています。偏に三陸での学生生活の中で培われた未知の世界への探究心や粘り強さ、すばらしい自然観などが人生の糧となっている様に思います。

また、私たちは生き物好きが高じて、LifeWorkとして国内各地や海外はマレーシアなどのジャングルに生き物たちを探しに向かうようになりました。

ふと、身近な自然に目を凝らし

て見ると、けな気に生きている小さな生き物たちの姿を見つけることができます。そんな小さい生き物たちの興味深い生態や表情に感動して長らく写真を撮り続けています。

この度、私の定年退職を記念して、昆虫などの小さい生き物たちをテーマにした写真集『身近な小さい生き物たち 2 命の営み』(新風書房ドニエプル出版)を出版いたしました。前著『身近な小さい生き物たち 1 ファーブルに捧ぐ』(2018年)の続編です。

前著は生き物たちの種類ごとに図鑑的な構成でしたが、本著は生き物たちの出来事や様子など、春夏秋冬の興味深いエピソードを写真と共にポエム仕立ての説明文とイラストを添えて紹介しています。

「身近な小さい生き物たち」の命の営み、一生懸命に生きていく小さな命からのメッセージです。環境や日常生活の大切さ、命の尊さなどを感じていただければ幸いです。

本文中は英語対訳・ルビ付きで、基本的な生物学用語を盛り込み、学習に役立てていただけるようにしました。併せて、写真集としては珍しい点字および音声デー

タを製作して、視覚障害者情報総合ネットワーク「サピエ」に登録していることで、視覚に障がいのある方々にも楽しんでいただけたかと思えます。

多くの皆様、特に子供たちに読んでいただければ嬉しい限りです。

折しも2023年はフランスの昆虫学者J. H. ファーブルの生誕200年。ファーブルが身近な自然に眼を向けて訴えかけてきたように、私たち夫婦も及ばずながら、「身近な小さい生き物たち」からのメッセージを通して、残りの人生、何かお役に立てることができれば幸いと考えております。



写真集『身近な小さい生き物たち 2 命の営み』(表紙)

## 関西地区親睦会

FA 23期 北吉 直子

2月4日(日)、大阪で親睦会を開催いたしました。コロナでなかなか開催できなかった親睦会を、久しぶりに無事開催できた事に安堵しています。今回は遠方より参加して下さった卒業生もおられました。また、様々な年代の卒業生が集まり、より楽しい会となりました。

参加者の感想をご紹介したいと思います。  
東京より参加 はじめて大阪駅に降りました。初めての土地で、初めての参加です。

美味しい食事とフランクな会話で、懐かしく楽しいひと時を過ごす事ができました。このような会を続けてきた関西地区のパワーを感じます。



東京より参加 同窓会に参加し、卒業以来会っていなかった部活の先輩に会うことができとても懐かしい気持ちになりました。なかなか会える機会もないので、皆様、同窓会に参加してみたいかがでしようか！

愛知より参加 初対面の方が大半でしたが、高橋先生のお顔を見てホッとしました。

近くにコンビニが無かった世代、あつた世代：それぞれの三陸話！楽しかったです。

大阪より参加 コロナ以降数年ぶりの親睦会に参加でき、楽しい時間を過ごしました。

変わらない高橋先生、先輩方、後輩の姿に元気をもらえ、次回も

楽しみにしております！

大阪より参加 4年ぶりの三水会の親睦会、様々な年代の方々とお話ができ、楽しい時間を過ごせました。伊江島にダイビングに行こうと思います！

そして、恩師である山森先生のご冥福をお祈りいたします。

他にも、「楽しかったので他の人にも勧めたい」「いろんな年代、地域の参加者と交流できて良かった」「オシャレな会場で良かった」との感想を複数いただきました。また、「ゲストの先生方の人数を増やしたい」「誰が参加しているのか、わかりやすくしてほしい」とのご要望もありました。次回に向けて、わかりやすい案内、という課題もできたので、「頑張りたいと思えます！ありがとうございます！」

## 魚類生態学研究室の近況報告

魚類生態学研究室准教授

林崎 健一

去る1月1日に石川県能登半島地方を震源とする地震により犠牲となられた方々に謹んでお悔やみ申し上げますとともに、被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。一日も早く平穏な日常が

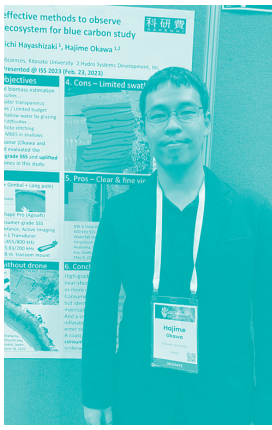
戻りますようお願い申し上げます。テレビのニュースを見ながら、すでに13年前になった三陸キャンパスを襲った東日本大震災の激しい揺れと、津波で瓦礫となった越喜来の街が脳裏に蘇りました。

さて、魚類生態学研究室の学生さんと震災当時のOBの最近の活躍をいくつか紹介したいと思います。まず、カンボジアからの留学生、Ao Yeasnaさんの博士論文の論文発表会が無事終了しました。Aoさんは、コロナ禍の始まりと来日時期が重なってしまい、日本での研究生活は大変苦労されました。論文題目は、「Influence of hatchery protocols on skeletal malformation and genetic characteristics of Asian seabass *Lates calcarifer*」でありました。東南アジアでは、とてもポピュラーな魚で、標準和名ミナミアカメ、釣人にはバラムンディーとして知られています。カンボジアでは、種苗供給の多くを外国に依存していて、国内生産はわずか10%です。種苗生産の過程で背曲がりといった形態異常を引き起こし、その飼育の改善が求められているところなんです。種苗生産の現場でのDNA解析によりその多様性の変化を記述するとともに、飼育方法

の違による形態異常の発生率の差を明らかにしました。カンボジアへ帰国の後は、政府系水産研究機関の研究者としてのご活躍を祈念いたします。また、日本とカンボジアとの架け橋となってくれるものと思います。

2023年度の我が魚類生態学研究室の在籍学生は、Aoさんを含め博士課程2名、修士課程4名、4年生13名でした。その中で、今年度修士課程修了予定者2名の研究を紹介したいと思います。

小池 優人君は、「内湾浅海域における魚類出現動態研究に対する環境 DNA 分析の有効性」というタイトルで発表いたしました。環境 DNA は、海域の水を採取し DNA 分析することにより、生息する水生生物の種類や数がわかると言われている手法です。朝日田先生のグループは、三陸の越喜来湾を中心に研究活動を展開されています。震災の前と後で魚類、特に碎波帯に出現する仔稚魚に対



してどのような影響があったのかを、精力的に研究されています。2018年に本学で博士の学位を取得した片寄剛君は、当該研究に重要な役割を果たしました。大学院終了後も論文を発表するとともに、岩手県職員として活躍されています。片寄君は、東日本大震災の当時大学2年生で、三陸で学生生活を送った最後の学生です。

もう一人の修士課程修了予定者の大川創君は、「ブルーカーボン推定を目的とした音響計測機器による海藻・海藻の計測」というタイトルで発表を行いました。社会人と学生の二足の草鞋を履いていて、両者の両立に苦労したことと思います。2023年2月には、ISS2023で口頭発表するため、オーストラリア・タスマニア島へ同行しました。最後の最後まで発表練習をして相当ハラハラ



させられました。が、なんとか国際学会デビュー戦を果たしました。大川君の研究のように、ブルーカーボンを衛星画像やソナーを用いて正確に

推定する事とともに、ブルーカーボン・クレジットの価値を合理的に定めることも、カーボンオフセットによる二酸化炭素削減を促すために重要なポイントです。私が研究代表を務めるブルーカーボン研究プロジェクトで、本研究室出身、東京大学大学院で学位を取得した鈴木崇史君(現、鹿児島大)に分担研究者になってもらいました。彼も、片寄君と同じく、震災時2年生だった学生です。オンライン意識調査が得意で、ブルーカーボン・クレジットに対する市民の意識を明らかにすることが分担課題です。かつての学生さんが成長し、共同研究者として一緒に研究ができるというのは、教員にとっても嬉しいことです。これからも、前途ある若者が集い、切磋琢磨する研究室であり続けたいと教員一同願っております。

## 2023年度

### 就職ガイダンス報告

FA12期 越川 成二

2023年10月19日に毎年恒例となった就職ガイダンスを相模原キャンパスMB号館で行いました。

講演者は有限会社泉澤水産の代

表で定置網を北海道・岩手・宮城・静岡・高知と手広く展開をしている9期の泉澤宏さんと、同じく9期のチーカマで有名な株式会社丸善に営業から営業所長・研究所・品質保証部を歴任し、現在はお客様サービス室に勤めていらっしゃる宮田祐さん、そして毎回兵庫より学生のために就職の基本的なことを教えてくれるブレインズサークルNの代表で23期の北吉直子さんの三名です。

まず最初に泉澤さんの講演からスタートです。泉澤さんは卒業後に就職した会社から2度の転職を経験し、現在は先にも書きましたが、定置網を手広くやっておられます。苦労話や失敗談、今後の漁業の事、そして学生向けに漁業に対する見方が変わるような話、具体的には泉澤さんが経営している漁業は給料制でボーナスもあり、有給休暇も取れるので、我々が思っている一般企業との違いはほとんどないということでした。違いといえば朝が早いということですかねと笑っておっしゃっていました。

次の講演者は宮田さん。営業の苦労話や研究所でのやりがい等、加工食品会社のいいところなどを話していただきました。

宮田さんは定年までを1社で過



泉澤さんと宮田さん

前のお打ち合わせでお願いをいたしました。また、せっかく先輩が来ての前に、前で恥ずかし

ごしましたが、転職を考えたことはなかったですか？と北吉さんが入って、学生に代わり質問をし、宮田さんが考えたことは少しあったけど、居心地が良かったからかなあと言っていたのが印象的でした。  
そして3人目はファシリテーター役にもなっていたきました北吉さんです。北吉さんは就職に対する心構えや就職活動の注意点などを話してくださいました。  
高橋会長の強い意向でもあり、また我々も同じ考えなのですが、就職は一度きりではなく、希望にあわない会社でしたら、転職もできます。自分が興味を持っていて会社のことは率先して調べて行動を起こすことを是非やってくださいと勧めてくださいました。  
今回は今までは少し、趣向を変えて講演者の方には自社の話を少しだけにしていただき、業界の話を多めに話してもらおうように事前の打ち合わせをお願いいたしました。



ガイダンスを受講する学生

いのか、手を挙げて積極的に質問をしてくる学生は皆無と聞いていた状況が毎回続いていましたので、その打開策として、講演者と学生の間に入って学生が知りたいだろうと思われる質問（事前アンケートは取っていました）を、北吉さんから講演者にし、また講演者の話の内容を簡単にかみ砕いて学生に補足説明をすると言うことをやってみました。  
結果は北吉さんが講演者と学生との間に入ったことで、今までの一方通行的な講演ではなくなっていて私は非常に良かったと思っています。  
今後の課題として、チャットを駆使し、学生が聞きたいことをその場で吸い上げ、講演者に投げかけられるようになればより良い就職ガイダンスになると思っています。

## “ 掲 示 板 ”

### ■ 三水会第16期代議員候補者の推薦について

2024年度は三水会第16期代議員改選期にあたります。

本会活動を円滑に運営するために代議員の協力は欠かせません、自薦、他薦は問いません、下記の要綱にてお申し込みくださいますよう、お願い申し上げます。代議員任期は2024年5月19日から2027年5月の定期総会までの3年間となります。

記

1. 下記をご記入の上、三水会事務局までFAXもしくは電子メールにて三水会事務局までお送り下さい。

- ①代議員候補者氏名    ②卒業学科年度（西暦）    ③勤務先名称    ④現住所    ⑤電話番号（携帯）
- ⑥電子メールアドレス

※1）代議員の主な活動

- ・毎年5月白金キャンパスで開催（第3土曜日15時開催予定）の三水会定期総会出席（委任状も可、交通費支給）
- ・その他

2. 推薦受付期日は2024年3月末日です。

3. 不明な点は下記三水会事務局まで、お問い合わせください。

三水会事務局 TEL・FAX 0120-873-135 E-mail:information@kitasato-sansuikai.jp

## ■ 2024年度三水会定期総会のご案内

下記により2024年度三水会定期総会を開催します。

代議員はもとより一般会員も傍聴できますのでご参加ください。

開催日時：2024年5月18日（土）午後3時～（予定）

開催場所：北里大学白金キャンパス・・・講義室

（注）開催場所は大学の都合により変更される場合がありますので、ご参加の方は下記の三水会事務局までご確認ください。

TEL：0120-873-135 <http://kitasato-sansuikai.jp/>

- 議 事
- 1 2023年度事業報告及び収支決算報告
  - 2 2023年度監査報告
  - 3 2024年度事業計画及び収支予算
  - 4 第16期代議員改選
  - 5 その他

\* 総会終了後、講演会を予定しています。

## ■ 菅野信弘先生退職記念祝賀会（水産食品化学研究室同窓会）のご案内

菅野信弘先生の長年にわたるご指導と貢献に感謝を込めて、退職記念祝賀会を開催いたします。本会は水産食品化学（食品化学）研究室の同窓会も兼ねております。

日時・場所：6月15日（土）17時～ 新横浜プリンスホテル

会 費：13,000円（菅野先生への記念品代含む）

記念品代：一口3,000円（ご欠席の方でご協力いただける方）

水産食品化学研究室の出身でない方も大歓迎です。お知り合いの方にもぜひお声がけください。

詳細情報やお申し込みについては、以下のサイトをご覧ください。

<https://forms.gle/5HywX6oJHx1XJHVn8>



## ■ 北里大学海洋生命科学部創立50周年記念誌頒布終了のお知らせ

2023年9月より、会員の皆様に海洋生命科学部創立50周年記念誌の頒布を受付けていましたが、2024年3月末で終了いたします。

### 【訃報】

- ・ 山森邦夫北里大学名誉教授がご逝去されました。2024年1月12日 享年79歳
- ・ 逝去会員（2024年1月末までにお届けいただいた方です。）
  - 3 F A 近藤 学さん 2023年9月5日 享年69歳
  - 3 F F 中村秀夫さん 2023年9月21日 享年69歳

### 編集後記

2024年は元旦から能登半島地震で新年が始まるという事態となりました。震災の被害に遭われた方々にこの場をお借りしてお見舞い申し上げます。

東日本大震災においては卒業生同士の強いつながりが後押しとなって学部や被災した関係者の復興の力となっていました。今回も被災した仲間がいれば情報を共有して協力し合えることを共に考えていければと思います。毎年のように起こる災害はいつどこで発生するかわかりません。各自が対策をとっても必ずしも万全とはなりません。様々な形で人とつながりがお互いの支えになるのかもしれませんが。三水会もその一助となれるよう卒業生のつながりを世代を越えて広げていければと思います。会員の皆様のご協力を今後ともよろしくお願い申し上げます。